

## 決算報告

長門市の令和2年度決算が議会で承認されました。市民の皆さんが納めた税金は、皆さんの暮らしをより良くするためにさまざまな形で使われています。長門市の財政状況について、税金がどのくらい納められ、どのように使われているのか、令和2年度決算から紹介します。

令和2年度に実施した  
主要な施策

令和2年度には、「GIGA スクール構想」の実現に向けて、児童一人に1台ずつ端末を導入するなど、急速に進む学校のICT化に対応するための事業を行いました。そのほか、

- ・光ファイバー網整備事業
  - ・市民が主役の地域活性化事業
  - ・副食費助成事業
- などの事業を実施しました。

令和2年度に実施した  
新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルスの感染拡大の防止と地域経済回復の両立を図るため、きめ細かな支援を実施しました。

## 【主な支援策】

- ◆長門市市民助け合い応援券発行事業
- ◆特別定額給付金給付事業
- ◆ながと泊まつ得キャンペーン事業
- ◆新型コロナウイルス感染症対応環境整備事業
- ◆経営持続化支援金事業
- ◆赤ちゃんすくすく応援給付金
- ◆小中学校トイレ等自動水栓整備事業

## 家計の収入

家計簿の項目	年間収入	前年比 (%)
給料	35 万円	▲ 4.7
預貯金の取り崩し	2 万円	▲ 74.8
パート収入など	13 万円	▲ 4.1
前年の収支残	11 万円	22.5
親などからの仕送り	175 万円	29.7
借金	18 万円	▲ 61.4
合計	254 万円	1.7

## 家計に例えると

令和2年度決算を分かりやすくするために、歳入歳出を性質別に分け、年収 254 万円の家計に置き換えてみました。

家計簿で見ると、収入総額 254 万円のうち、自主財源に相当する給料や預貯金の取り崩し、パート収入は 50 万円です。支出では、義務的経費に相当する食費や医療・介護費、ローン元利返済などに 96 万円を支出しており、親などからの仕送りや借金をして何とか家計を成り立たせています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症への対策により、親などからの仕送りや生活用品の購入などが例年よりも大幅に増加しています。

## 家計の支出

家計簿の項目	年間支出	前年比 (%)
食費、医療費、介護費など	70 万円	8.3
ローンの元利返済	26 万円	▲ 2.7
家の増改築 風水害からの復旧費用	33 万円	▲ 52.0
光熱水費や生活用品の 購入、子どもへの仕送りなど	107 万円	51.9
車などの修理代	2 万円	1.6
知人への援助や貸付など	2 万円	▲ 11.4
貯金	4 万円	7.1
合計	244 万円	2.2



# 一般会計

令和2年度一般会計では、歳入が253億7,699万円、歳出が244億4,705万円で、翌年度に繰り越すべき財源1億2,451万円を差し引き8億543万円の黒字決算となりました。対前年度比では、歳入は1.7%、歳出は2.2%それぞれ増加しました。

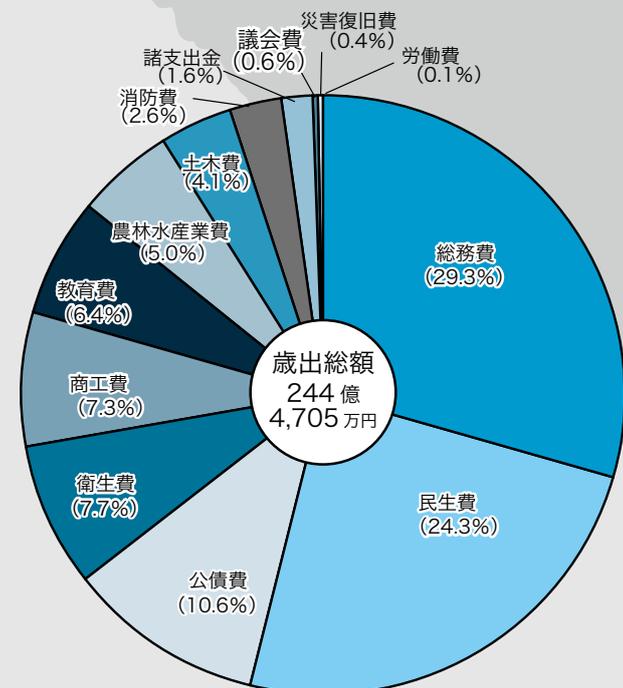
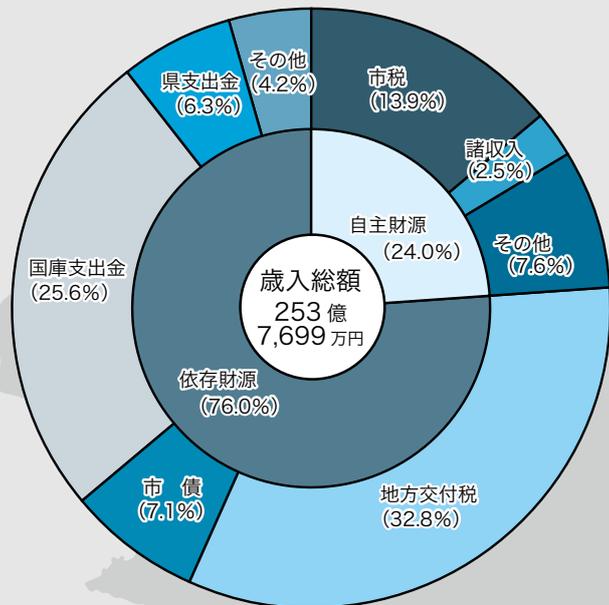
## 歳入

自主財源の根幹である市税は、35億2,952万円で、前年度比1億7,411万円(4.7%)の減となり、2年連続の減収となりました。また、市債は本庁舎建設事業などの大型事業の完了に伴い18億61万円で、前年度比28億5,855万円(61.4%)の減となりました。また、特別定額給付金給付事業費補助金や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の増により、国庫支出金が増加しています。そのため、市税や使用料など市が自主的に調達できる収入である自主財源の割合が24.0%となり、前年度より3.3ポイント減少しています。

## 歳出

歳出のトップは総務費71億7,169万円で、特別定額給付金給付事業の増などにより前年度比9億7,082万円(15.7%)の増となりました。続いて民生費の59億4,779万円、市の借金の返済に当たる公債費の順になりました。また、豪雨災害の発生により、災害復旧費が前年度比151.1%の大幅増となっています。

歳出全体では、前年度に比べて5億3,333万円の増となり、うち、義務的経費が39.1%(前年度比5.1ポイント増)、投資的経費が13.5%(前年度比52.0ポイント減)となっています。



## 長門市の歳入

市財政の項目	金額	割合 (%)
市税	35億2,952万円	13.9
自主財源		
繰入金	2億3,245万円	0.9
使用料及び手数料、寄附金、諸収入、財産収入、分担金及び負担金	12億7,566万円	5.1
繰越金	10億4,309万円	4.1
依存財源		
地方交付税、交付金 地方譲与税、国庫支出金	174億9,566万円	68.9
市債	18億61万円	7.1
合計	253億7,699万円	100.0

## 長門市の歳出

市財政の項目	金額	割合 (%)
経費的		
義務的		
人件費、扶助費	69億9,204万円	28.6
公債費	25億7,859万円	10.5
投資的		
普通建設事業 災害復旧事業費	33億1,118万円	13.5
繰出金、物件費 補助費等	106億9,376万円	43.8
その他の経費		
維持補修費	2億4,910万円	1.0
投資及び出資金 貸付金	2億4,183万円	1.0
積立金	3億8,055万円	1.6
合計	244億4,705万円	100.0

# 特別会計と市有財産の状況

特別会計は、特定の事業を行う場合、特定の収入（保険料や使用料など）をその事業にあて、一般会計から切り離すことで、経理上その内容が明確になるように設けられている会計です。

長門市には4つの特別会計があり、それぞれの決算額は右の表のとおりです。

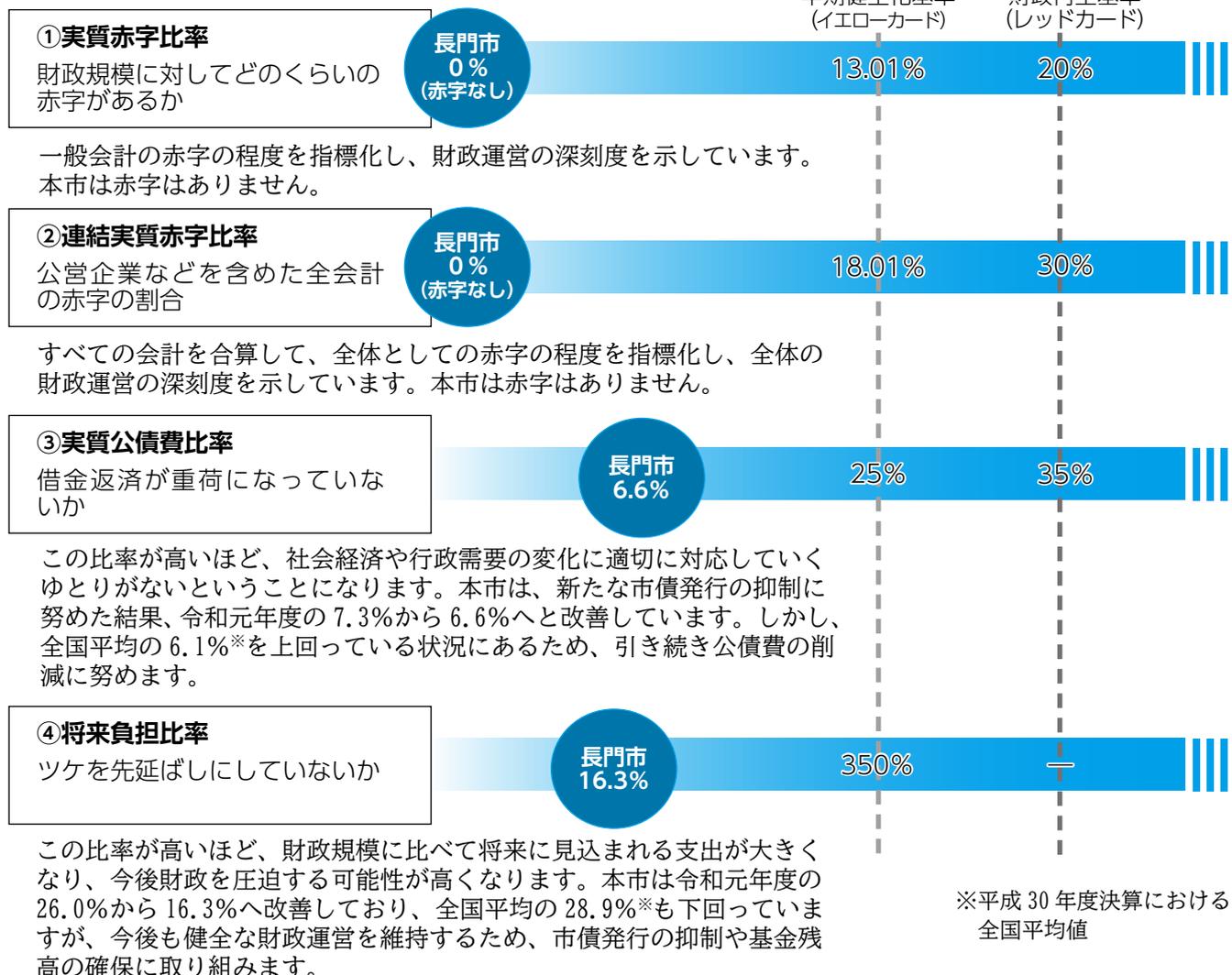
特別会計決算			
会計	歳入	うち一般会計からの繰入金	歳出
国民健康保険事業	52億 258万円	4億 2,910万円	48億 1,784万円
湯本温泉事業	1,338万円	787万円	1,338万円
介護保険事業	43億 198万円	6億 3,962万円	42億 1,995万円
後期高齢者医療事業	6億 9,922万円	2億 392万円	6億 8,785万円

市有財産の状況	
土地	244万㎡
建物	25万㎡
山林	5,292万㎡
出資金	2億 6,294万円
有価証券	200万円

基金・市債残高		
名称	令和元年度	令和2年度
基金残高	70億 9,182万円	72億 8,905万円
市債残高	238億 5,344万円	231億 9,100万円

# 長門市の財政状況

地方公共団体の財政の健全化に関する法律の規定に基づく指標



# 公営企業会計

市民の生活に欠かせない水道・下水道事業は、地方公営企業法に基づき企業会計方式を採用しており、日々の水道供給・下水処理に必要な経費（収益的収支）と水道・下水道施設の整備や更新に必要な経費（資本的収支）とを分けて経理しています。

なお、資本的収支では、通常収入が不足するため、収益的収支の純利益や減価償却相当分など内部に蓄えられたお金で収入不足を補てんしています。



▲更新工事が進む湯本浄水場

## 水道事業

### 水道事業の現状

項目	決算値	対前年度増減率
給水人口	30,427人	△1.7%
配水量	4,666,048 m <sup>3</sup>	△1.3%
一般会計からの繰入	1億5,037万円	1.7%
資産残高	91億4,081万円	0.5%
企業債（借入金）残高	34億7,580万円	0.2%

収益的収支では、更新に伴う旧監視システムの除却により、資産減耗費が5,252万円（対前年度+326.4%）の増となるなど支出額が増加しています。一方で水道事業経営を支える水道料金収入は、コロナ禍による経済活動停滞の影響から4億9,768万円（対前年度△0.7%）と減収となり、純利益は172万円（対前年度△96.0%）と大幅に減少しました。

資本的収支では、竣工から50年以上が経過している湯本浄水場の更新工事に加え、老朽化したポンプや水道管の更新工事などを実施するための借入金の増により、企業債残高は増加しています。

### 収益的収支（税抜）

項目	決算額	対前年度増減率
収入	6億7,673万円	△1.1%
水道料金	4億9,768万円	△0.7%
支出	6億7,501万円	5.3%
減価償却費	2億8,514万円	△2.5%
純利益	172万円	△96.0%

### 資本的収支（税込）

項目	決算額	対前年度増減率
収入	2億8,953万円	4.2%
企業債（借入金）	2億3,740万円	2.4%
支出	6億6,914万円	18.5%
建設改良費	4億4,003万円	29.5%
不足額	3億7,961万円	32.2%

## 下水道事業

### 下水道事業の現状

項目	決算値	対前年度増減率
水洗化人口	25,460人	△1.6%
汚水処理水量	4,549,810 m <sup>3</sup>	△3.6%
一般会計からの繰入	7億5,704万円	△2.9%
資産残高	225億3,482万円	△4.6%
企業債（借入金）残高	60億4,760万円	△6.8%

収益的収支は、実質的な赤字部分を一般会計繰入金により補てんしており、純利益はゼロとなっています。また、下水道事業経営を支える下水道使用料収入は、コロナ禍による経済活動の停滞の影響から4億7,976万円（対前年度△0.7%）と減収となりました。

資本的収支では、青海・開作地区農業集落排水施設の公共下水道事業への切替のためのマンホールポンプ設備工事を実施する一方で、下水道管の長寿命化対策として実施した仙崎地区の管渠施設改築更新工事など次年度に繰り越した工事が例年より多く、収入支出ともに大幅に減少しました。

### 収益的収支（税抜）

項目	決算額	対前年度増減率
収入	16億2,399万円	△0.8%
下水道使用料	4億7,976万円	△0.7%
支出	16億2,399万円	△0.8%
減価償却費	9億8,673万円	3.3%
純利益	0円	-

### 資本的収支（税込）

項目	決算額	対前年度増減率
収入	3億9,303万円	△53.4%
企業債（借入金）	1億3,850万円	△54.9%
支出	8億2,482万円	△36.2%
建設改良費	2億4,811万円	△64.2%
不足額	4億3,179万円	△4.1%